



# まんだらげ

Vol. 29

2014 SUMMER

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。



Photo: 熊野川(新宮市熊野川町)

## Contents

ごあいさつ

特集 / 東棟 中央手術部・中央内視鏡部  
地域医療支援センター

新任教授紹介 / 診療科紹介 /  
看護キャリア開発センター  
掲示板

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。



理事長・学長  
岡村 吉隆



病院長・整形外科教授  
吉田 宗人

## 和歌山県唯一の医育機関で 高度医療人の育成に努める

当院は和歌山県において、がんの診療や研究を専門に行う施設「がんセンター」や、新生児も含めた小児を対象とした病院「こども病院」の役割も期待される、県民のための総合病院です。

ロボット支援手術（ダヴィンチ）やトモセラピー、リニアック（強度変調放射線治療設備）、ハイブリッド手術など、ここ数年にわたって最先端の医療機器を次々と導入。今年は東棟を新設し、手術室や内視鏡室の増室、地域医療支援センターにおける遠隔外来の開設、化学療法センターの拡充など、より充実した医療体制を実現しているところです。

和歌山県唯一の医育機関である本学は、高度医療人の育成に重大な責任を持っております。地域医療支援センターでは県民医療枠や地域医療枠による学生のキャリア形成をバックアップしています。また今年度から、大学の保健看護学部と病院の看護部による看護連携ユニフィケーションの一つとして、「看護キャリア開発センター」を設置し、実践的で質の高い看護師の教育プログラムを管理。さらに形成外科とリウマチ膠原病などの2つの外来の新設と、それに伴って大学でも新講座を開設する予定です。

和歌山県の基幹病院として県民の皆様から信頼されるために、あらゆる医療の分野において最先端の技術と人材を提供できるようにこれからも努めてまいります。

## 最先端機能の充実により 地域医療に貢献

和歌山県立医科大学附属病院は、高度先進医療を担う“大学附属病院”であり県民の医療を担う“県立病院”でもあります。一般病床760床と精神科病床40床の合わせて800床、24診療科と22中央診療部を擁し、高度な医療を提供しています。また、あらゆる分野の疾患に対して総合的な診療ができる県内で唯一の特定機能病院であるとともに、県がん診療連携拠点病院、県災害拠点病院、高度救命救急センター、周産期総合医療センター、エイズ治療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院などに指定されています。

当院では、前立腺がんなどに応用している手術支援ロボット“ダヴィンチ”、頭頸部がんへの治療に応用を開始した強度変調型放射線治療装置“トモセラピー”等、最新鋭の機器を導入し成果を挙げております。さらに、本年4月にオープンした附属病院東棟では中央手術部を12室から19室に増室し、心血管疾患に対して新たに血管内治療と外科的治療を組み合わせた治療が可能な「ハイブリッド手術室」や、複雑な脊柱変形等の治療に対して日本ではまだ限られた施設にしか導入されていない最先端の術中モバイルCTとコンピューターナビゲーションシステムを備えた手術室を備えました。また、内視鏡検査、治療室も5室から9室に増室し、新たな医療技術の開発によって内視鏡手術や診断のさらなる充実を目指します。以上のように、当院では大学附属病院として最先端機能の充実を図っており、今後とも県民の皆様ご期待に応えられるよう努めてまいります。どうか皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 患者様により満足していただける 診療環境の構築をめざす

副院長・第二内科教授

### 一瀬 雅夫

渉外担当で、医療安全推進委員会などを担当させていただきます。どうぞ宜しく御願い申し上げます。

改めて院内を見渡しますと決して充分とは言えない人員シフトをものともせず、全国的にも胸を張れる診療を行っている診療科がいくつも目につきます。高度医療の安定供給には院内の安全管理体制確立が前提です。各部署の構成員の資質と頑張りに応えるべく、他の3名の副院長と協力して院長を補佐し、環境整備に一層尽力する事で、患者の皆様や紹介して頂く先生方に御満足頂ける診療環境構築を目指したいと考えております。

皆様の御支援を御願い申し上げます。



## 患者さんやご家族に安心していただけるケアの継続のために

副院長・看護部長

### 岡本 恭子

医療の進歩はめざましく、それに伴い看護もまた豊富な知識と確かな技術が求められています。そのため、より一層の教育の充実を目指し、平成26年4月に「看護キャリア開発センター」を設立致しました。皆様のご協力を頂きながら、優れた看護職の育成を担っていくことで安全なケアの提供と、地域の看護職の方々にも教育の場を提供していきたいと思っています。患者さんやご家族が安心して、地域で生活できることを目指して、看護職の連携を深めていきたいと思っています。



## ハイブリッド手術室など施設の 充実と共に人材育成の強化を図る

副院長・脳神経外科教授

### 中尾 直之

本学を昭和61年に卒業し、国保日高総合病院勤務、海外留学などを経た後、平成9年より本学脳神経外科で勤務してきました。

専門は脳腫瘍で特に頭蓋底腫瘍の外科治療に取り組んできました。神経内視鏡の導入などを行い、頭蓋底外科領域の低侵襲化を目指しています。

今春、東棟がオープンし手術室が増え、『ハイブリッド手術室』も新設されました。当院はさらなる飛躍を遂げるチャンスを迎えていますが、これらの装備を活用するためにはマンパワーが必要です。各種委員会の運営という院内担当の副院長としての本来の役割はもちろん、当院の喫緊の課題と言える人材確保に向けた何らかの取り組みができればと思います。



## 医は不仁の術、 務めて仁をなさんと欲する

副院長・リハビリテーション科教授

### 田島 文博

病床管理、地域連携や医療サービス向上等担当の副院長を拝命した田島文博と申します。標題は、華岡医塾分塾に学び、後に中津医学校を設立した大江雲澤先生の医則です。

当院は、県民の皆様への健康福祉の向上が基本方針で、医療向上を研究・教育しなくてはなりません。医療はメスを使ったり、薬を投与したり、仁ならざる術(わざ)を駆使しますが、全て患者さんのため(仁)です。

しかし、お気づきの点がございましたらご意見箱等でご指摘下さい。

また、地域医療推進では、連携医先生のご指導が欠かせませんので、宜しくお願い致します。



特集

# 東棟完成!

## ハイブリッド手術室の開設や 遠隔外来を導入



新設した東棟外観(左)

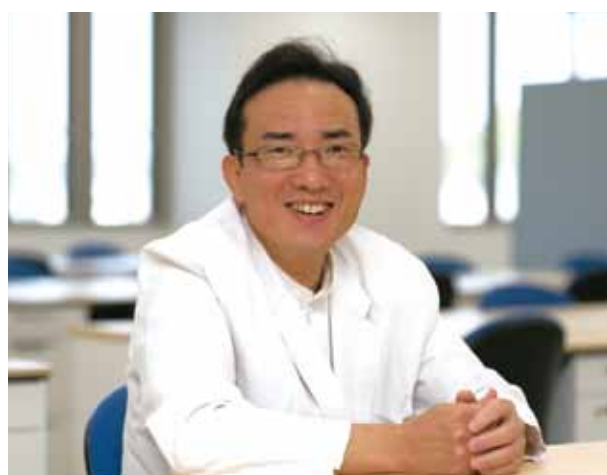
### 手術待ち日数の短縮化と 高度な手術がより安全かつ迅速に

平成24年11月から工事が進められていた東棟が今年3月に完成し、4月から本格的に運用を開始しました。がん診療を中心に充実した医療環境を整備し、新たにテレビ会議システムを活用して地域の公的医療機関を支援するためのネットワークを構築しました。東棟は鉄筋コンクリート造り地上5階建てで、中央棟と渡り廊下により接続しています。延床面積は5,270平方メートル。工事費や整備費含めると総額は約36億円。

2階の中央内視鏡部には内視鏡検査・治療室を4室増設し9室に。本院の内視鏡手術や診断をさらに充実させます。

4階の中央手術部は手術室7室を増設し、手術室総数19室体制を確立しました。

今回の手術室には、高解像度で透視できる装置や最先端の外科手術設備を備えた「ハイブリッド手術室」1室が整備されました。手術台に移動機能や回転撮影



地域医療支援センター 上野雅巳 教授・センター長

機能がある高性能な血管造影装置を統合したシステムで、高解像度の透視や3D撮影ができる最新鋭手術室です。これによって、カテーテルを用いた血管内治療と外科治療を組み合わせ合わせた治療ができ、大動脈瘤など高度手術をより安全かつ迅速に実施することが可能になります。

手術室がフル稼働すれば、患者さんの手術待ち日数の短縮化と、これまで以上に緊急手術への対応が期待されます。

# 高度な医療環境が充実



高度な最新機器を備えたハイブリッド手術室



中央内視鏡部



遠隔外来のデモンストレーション

3階には地域医療支援センターが入り、新たなスタートを切りました。地域医療センターでは「県民医療枠」「地域医療枠」の卒後9年間の専門医・総合医を養成する研修を通して、地域医療従事医師の養成、地域医療の充実に取り組んでいます。

「地域医療の充実には能力の高い医師が育てることが重要です。医療の専門性を高めるとともに、どんな疾患でもどんな患者さんでも診ることができる救急医、総合診断医の側面をもった医師の育成を目指しています」と地域医療支援センター上野雅巳教授・センター長。今年「遠隔医療支援システム」の導入により、和歌山県内の地域医療を支援する意向です。遠隔医療支援システムは今年7月から稼働予定。

## ●遠隔医療支援システムとは

インターネット回線を使用して和歌山県立医科大学地域支援センターと遠隔地の病院を結ぶネットワークを築きます。

- ◎救急患者の専門的治療の必要性について診察できるほか、遠隔地で撮影した画像の診断補助も可能
- ◎患者さんは遠隔地に居ながらにして専門医の診断を受けられます。
- ◎専門医養成コース、総合医療養成コースの医師は和歌山県立医科大学で行われる講義・講演を聴講することができます。



## 新任教授紹介

### より質の高い手術麻酔、ペインクリニック、和痛分娩、緩和ケアを提供

今年4月1日付で和歌山県立医科大学麻酔科学教室の教授に就任いたしました。北海道函館市出身で、平成3年に札幌医科大学を卒業し、札幌医科大学附属病院、信州大学医学部附属病院(長野県松本市)で麻酔科に従事した後に、紀州の地にやって参りました。生粋の北海道人(道産子)です。専門は臨床麻酔と痛み治療で、長年、手術後の痛みやがんの痛みの研究に取り組んで参りました。

私たち麻酔科の主たる業務は、患者さんが安全に手術を受けられるよう全身管理する事です。手術の侵襲から生体を守り、手術中であっても生体の恒常性を維持する事が私たちの使命です。そのために、最先端の知識とテクノロジーを導入して質の高い全身管理をしております。また、手術中だけではなく、快適な術後療養と回復を提供するために、術後の痛み管理にも最新の方法を導入して積極的に取り組んでおります。

手術麻酔だけではなくありません。手術中の痛みを除去する技術を応用して、腰痛や帯状疱疹後神経痛などの慢性痛を軽減するペインクリニック、分娩の痛みを

軽減する和痛分娩、さらには、がんの患者さんの痛みや気持ちのつらさを和らげる緩和ケアにも積極的に取り組んでおります。和痛分娩では産婦人科・小児科と、緩和ケアでは精神科・看護部・薬剤部とともにチーム医療として取り組んでおります。



麻酔科  
川股知之教授

今後も教職員一丸となって、より質の高い手術麻酔、ペインクリニック、和痛分娩、緩和ケアを提供し、県民の健康の推進に尽力いたします。

よろしくお願ひいたします。

#### 経歴

- 平成 3年 札幌医科大学医学部卒  
札幌医科大学医学部麻酔学講座(研修医)
- 平成 4年 旭川赤十字病院麻酔科  
市立旭川病院麻酔科
- 平成 5年 室蘭日鋼記念病院麻酔科
- 平成 6年 札幌医科大学医学部麻酔学講座 研究生
- 平成 12年 札幌医科大学医学部麻酔学講座 助手
- 平成 18年 札幌医科大学医学部麻酔学講座 講師
- 平成 20年 札幌医科大学緩和医療学講座 講師兼任
- 平成 22年 信州大学医学部麻酔蘇生学講座 准教授  
(平成24年カリフォルニア大学サンフランシスコ校麻酔科 visiting associate professor)
- 平成 26年 和歌山県立医科大学麻酔科学教室 教授



## 診療科紹介

### 重症循環器疾患に対し24時間体制で最新の治療を行う

#### 循環器内科

教授：赤阪隆史

循環器内科は、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患をはじめ、心臓弁膜症、心筋症、先天性心疾患、肺高血圧、大動脈疾患、閉塞性動脈硬化症、高血圧、不整脈、心不全など、種々の心臓や血管の病気についての診断・治療を行っています。当科スタッフの多くが内科学会や循環器学会、冠動脈インターベンション治療学会、超音波医学会などの認定医や専門医であり、個々の専門性を生かした内科治療・カテーテル治療を行うと同時に心臓血管外科と協力して外科治療を含めたハートチームとして患者さん中心の診療にあたっております。

当科の特徴は、一般病棟の中に、心血管疾患専門の集中治療室であるCCUを併設していることで、急性心筋梗塞や心不全などの救急治療を必要とする心血管疾患患者さんに対して、スタッフ一丸となり24時間体制で診療に取り組んでいます。

今年から心臓血管外科・麻酔科などと連携し、4月に完成したハイブリッド手術室を使用し、高齢者の重症大動脈弁狭窄症に対して、外科治療ではなくカテーテルを用いて人工弁に置換する体への負担の少ない新たな治療法(TAVR)も開始する予定です。



# 看護キャリア開発センター新設

## 看護師の育成&キャリアを支援 「看護キャリア開発センター」

和歌山県立医科大学では看護師の教育環境を整え、生涯を通じたキャリア支援を行う「看護キャリア開発センター」を4月1日(火)に設置しました。同センターは実践的で質の高い看護師の育成を目指し、新人や中堅などキャリアに合わせたさまざまな教育プログラムを管理。また就業促進や離職防止に取り組むために、きめ細かいキャリアサポートも随時行っていく予定です。

スタッフは医大で約30年の看護師の経歴を持つ池下ゆかりセンター長をはじめ、和歌山県立医科大学保健看護学部の教授、教育担当看護師長、事務員2名で構成されています。池下センター長は「現場を熟知する看護部教育委員会や、学生を指導する保健看護学部の教育者と密な連携を取り、看護師一人一人のスキルやプロ意識を向上する育成システムや、キャリアアップにつながる支援体制をつくっていきたく思います」と話します。

## 看護師のスペシャリストの育成と 看護師の復職を支援

看護部教育委員会担当の芝瀧ひろみ看護副部長は「看護部教育委員会では看護職員の教育に関する企画・運営・評価を行っています。700人余りの看護職員の教育を行うにあたり、センターができ、連携することでより効率的に看護師の質の向上が望めると期待しています。」と語ります。同様に同委員会の委員長である森澤祐己子(ゆうみこ)看護師長は、



看護部教育委員会の芝瀧ひろみ看護副部長(右)と森澤祐己子(ゆうみこ)看護師長



池下ゆかり看護キャリア開発センター長(前列右)とスタッフ

「学校を卒業したばかりの新人看護師には、1年の臨床研修が努力義務化されているため、プログラム内容が充実しています。しかし、卒後2、3年の看護師に向けた研修プログラムを導入する体制はまだ整っていません。今後はセンターと連携しながら実現できれば。」と述べました。加えて、後輩の指導や支援ができる看護師の育成や、「専門看護師」や「認定看護師」「認定看護管理者」など特定の専門分野の知識や技術を持つスペシャリストの学びの場をつくるのも今後の課題、と池下センター長。一方、保健看護学部の学生たちが現場の事例を学べる講義や実習は、すでに一部実施されています。

和歌山県医務課が公表した「第七次和歌山県看護職員需給見通し」によると、平成27年には約256人もの看護師の不足が推計されています。「ワークライフバランスやメンタルヘルスなどに関するカウンセリングや、結婚や出産などで退職した“潜在看護師”の復職支援を行うことで、看護師不足を解消できれば」と話します。同時に院内のみならず、地域で働く看護師やこれから看護師を目指す人たちにも教育の場や情報を提供し、和歌山県の看護現場を向上する役割を担うことを目標の1つにしています。

[http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital/nursing\\_care/](http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital/nursing_care/)

看護部HPの  
QRコード



## 予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。  
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

### ■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて地域連携室にFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**地域連携室**  
FAX番号: 073-441-0805  
受付時間: 月～金 9:00～17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

### ■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。  
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**電話予約センター**  
電話番号: 073-441-0489  
受付時間: 月～金 8:30～16:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

### 看護師・助産師募集中

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。  
または下記までお問い合わせください。

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

TEL 073-441-0711 (事務局総務課)  
<http://www.wakayama-med.ac.jp>  
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

### 病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

**活動時間**  
外来①: 8時50分～11時30分  
外来②: 11時50分～14時50分  
病棟: 病棟と調整の上決定します。  
(活動時間はいずれも調整可能です。)

※対象: 平日に活動して下さる18歳以上の方  
詳細はお問い合わせください。

**問い合わせ先**  
和歌山県立医科大学附属病院  
代表: 073-447-2300  
医事課 ボランティア担当

### 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

### 患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようになるため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

### <外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。